

1. 健康保険組合を取り巻く状況

「厳しい運営環境」は継続:

(1) R3年度予算ベースでも全国の約80%の組合健保は経常収支で赤字
予算(赤字総額▲5.098億円 1,080組合で対前年+169組合 R2年度の
2倍の金額)

①実質保険料率が初めて10%を超える。

②法定給付金及び拠出金の支出に占める割合50%超の組合が全体の1/4を占める。
但し保険給付費(医療費)はコロナ禍の影響で医療機関受診の機会が減少した。

③保険料収入が減少し対前年度▲2,167億円の8兆60億円。

(2) R4年(22年)以降の団塊世代の後期高齢者入りにを機に財政危機を見込んでいたが、新型コロナ禍で1年早く到来した。

◎高齢者医療への拠出金は前年+3.6%増加の3兆6,627億円となるが、特に前期高齢者給付金の伸びが著しく+6.5%増加。(対前年+1,007億円増加見込み)



当健保も同様の傾向で、抜本対策を迫られている状況。

2. R2年度決算(20.4.1~21.3.31)一般勘定

(一般勘定)

(単位:百万円)		R2年 実績	R元年 実績	前年 実績差	R2年 予算	予算差	(参考) R3年 予算
経常	保険料収入	4,137	4,152	-15	4,137	+0	4,025
	その他	3	12	-9	10	-7	2
	収入計	4,140	4,163	-23	4,147	-7	4,027
	給付費(医療費)	1,964	2,031	+67	2,050	+86	2,115
	高齢者納付金(国)	2,188	2,155	-33	2,173	-15	2,277
	保健事業費・他	108	106	-2	144	+36	140
	支出計	4,260	4,291	+31	4,367	+107	4,531
経常収支計		△120	△128	+8	△220	+100	△504
経常外収支		132	84	48	23	+109	22
予備費		0	0		200	+200	200
収支計(実質)		12	△44	56	△397	+409	△682
別途積立金取崩し		80	100		397		682
収支決算残金		92	56		0		0
(資産残高)							
資産 残高	準備金残高	1,038	1,038		1,038	0	1,038
	別途積立金残高	1,347	1,335		895	+452	665
	その他(土地・建物等)	114	115		115	-1	114
	合計	2,499	2,488		2,048	+451	1,817

<一般勘定>

① 経常収支は▲120Mの赤字で若干の改善。

- ・保険料は収入減になった。(▲23M); 標準月額報酬減少
- ・高齢者納付金の増額(▲33M): 主に後期高齢者分が増加
- ・給付金(医療費)の減少(+67M): 受診機械減少(対前年89%)

② 経常外は132Mの黒字となり、実質的に今期は12Mの黒字。

- ・国及び健保連からの補助金増額により対前年+48M。

③ 期中に別途積立金80M取崩したので残金処分として92Mを積立金へ戻し入れする。

基礎数値

	R2 実績	R元 実績	R2 予算	R3 予算
保険料率	8.8%	8.8%	8.8%	8.8%
(事業主)	(5.225%)	(5.225%)	(5.225%)	(5.225%)
(被保険者)	(3.575%)	(3.575%)	(3.575%)	(3.575%)
被保険者数(平均)	7,958人	7,885人	7,887人	7,959人
報酬月額/人(平均)	379千円	385千円	385千円	372千円
標準年間賞与総額	11,773百万円	11,557百万円	11,400百万円	11,032百万円
給付費	法定給付	1,921百万円	1,989百万円	2,009百万円
	付加給付	43百万円	42百万円	41百万円
	(被保険者一人当たり)	(247千円)	(258千円)	(260千円)
納付金	前期高齢者	1,131百万円	1,128百万円	1,130百万円
	後期高齢者	1,057百万円	1,026百万円	1,043百万円
保健事業費	保健事業	70百万円	61百万円	91百万円
	保養所等	20百万円	26百万円	21百万円
(参考)				
2 加入者数	16,143人	16,155人	16,153人	16,235人
(被保険者+被扶養者)				

2. R2年度決算(20.4.1～21.3.31)介護勘定

(介護勘定)

(単位百万円)

	R2年 実績	R元年 実績	R2年 予算	R3年 予算
保険料率	1.75%	1.50%	1.75%	1.75%
収入				
介護保険収入	497.0	418.9	494.0	479.0
その他収入	1.5	4.9	0.0	1.0
計	498.0	423.8	494.0	480.0
支出				
介護納付金	491.1	440.8	491.2	475.1
その他支出	0.1	0.1	0.5	0.5
計	491.2	440.9	491.7	475.6
収支	6.8	▲ 17.1	2.3	4.4
予備費(△)	0	0	5.0	5.0
準備金取崩し	0.0	17.5	2.7	0.6
差引	6.8	0.4	0	0.0
準備金(介護)	52.3	45.5	42.8	51.7

<介護勘定>

- ①介護保険料率のへ引上げにより**収支黒字化 6.8M**
 - ・被保険者数は前年から横ばい6.1千人。
 - ・1.50%→1.75%へR2年度より保険料率の引き上げが奏功。
 - ・恒常的に納付金は上昇している。
(一人当たり10%以上増加)
- ②一般勘定や準備金からの受入れ・繰入れもなく、健全な形となり**収支差7Mは全額準備金**へ積立て。

<介護保険>

- ・40歳以上の国民は全員加入義務があり、「介護保険料」として国に納付。
(健保組合が従業員分を代行して納付)
- ・国は要介護の人たちへの「介護費用」の一部へ充当

3. R2年度事業報告

<保健事業の目的>

加入者の健康維持・増進を目的としており「健康指導」「健康維持増進」を促進するための費用。
将来の「医療費(保険給付金)」の削減を目指すために使用しており、積極的に削減対象とする費用ではない。
会社と協業(コラボヘルス)で各種活動の効果がでてきた。

<R2年度の実績>

支出実績89.6百万円(対前年+2.4百万円)
対予算▲28.4百万円)

(1) 検診・保健指導 25.6百万円

特定検診: 加入者の扶養者に対する特定検診
特定保健指導: メタボ対象者(予備群含む)に対する保健指導

(2) 保健指導宣伝活動 11.2百万円

機関誌発行・医療費通知・ICT利用による各種健康イベント実施
(ポイント付与を含むPepUpの活用)

(3) 疾病予防活動 32.6百万円

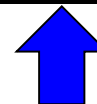
加入者の定期健康診断の費用負担
会社での歯科検診実施
人間ドックへの費用補助(節目ドック、定年記念ドック、配偶者向)
がん検診への費用補助
「電話健康相談」の実施

(4) 施設管理・運営 20.2百万円

保養所の管理運営
グラウンド、体育館の管理・運営

<R3年の予算と取組>

- ・予算: 115百万円(前年比128%)
- ・新たな取組
 - ・扶養者の特定検診受診率向上のために
(32%→47%)
 - ・受診料の無償化
 - ・受診勧奨はがきの発信回数を増やす(1→2回へ)



<R2年の振り返りと新たな取組>

・全体的に新型コロナ禍の影響を受け各活動とも計画の縮小を余儀なくされ、加入者の参画も前年と比較しやや微増、対予算は大幅減に終わった。
(対前年比: 人間ドック受診人数119% 特定検診受診者数94% 楓荘利用者数14%など)

・扶養者の特定検診受診率向上

当組合で他健保より受診率(30%)が低く向上が喫緊の課題であり、コロナ禍により更に低下懸念があったが、新たに受診勧奨はがき発送や工夫やにより、**落ち込みを▲2ポイントに留めた。**

・特定保健指導によるICT面談の導入

メタボ対象者に対する特定保健指導は各事業所のご協力の他に外部業者への委託も含め実施。本年からICTによる指導面談も可能となり、**43%の受診率と対前年+2%**と向上した。

R2年度残金処分

<一般勘定>

収支決算残金処分 92,448,936円

上記決算残金を、次の通り処分する。

法定準備金	0円
別途積立金	92,180,344円
繰越金	0円
財政調整事業繰越金	268,592円

<介護勘定>

収支決算残金処分 6,777,031円

上記決算残金を、次の通り処分する。

法定準備金	6,777,031円
繰越金	0円

- ・R2年度の資産は対前年17Mの増加。
- ・一般勘定は+12M 介護勘定は+6Mの増加
- ・建物の償却等で▲1M減少

R2年度財産目録

<一般勘定>

(単位: 百万円)

	R2年度	R元年度	差 異
(土地・建物)	(462)	(462)	0
(定期預金)	(554)	(553)	1
(他)	(22)	(23)	△1
法定準備金	1,038	1,038	0
(定期預金)	(1,347)	(1,335)	12
(他)	(0)	(0)	0
別途積立金	1,347	1,335	12
(土地)	(76)	(76)	0
(建物)	(26)	(27)	△1
(什器・他)	(12)	(12)	0
その他	114	115	△1
合 計	2,499	2,488	11

<介護勘定>

法定準備金	52	46	6
(普通預金)	(52)	(46)	6

報告事項: 1. 土地売却の件

売却物件: 旧保養所つつじ荘跡の土地 2,066m²

売却日 : 令和3年5月31日

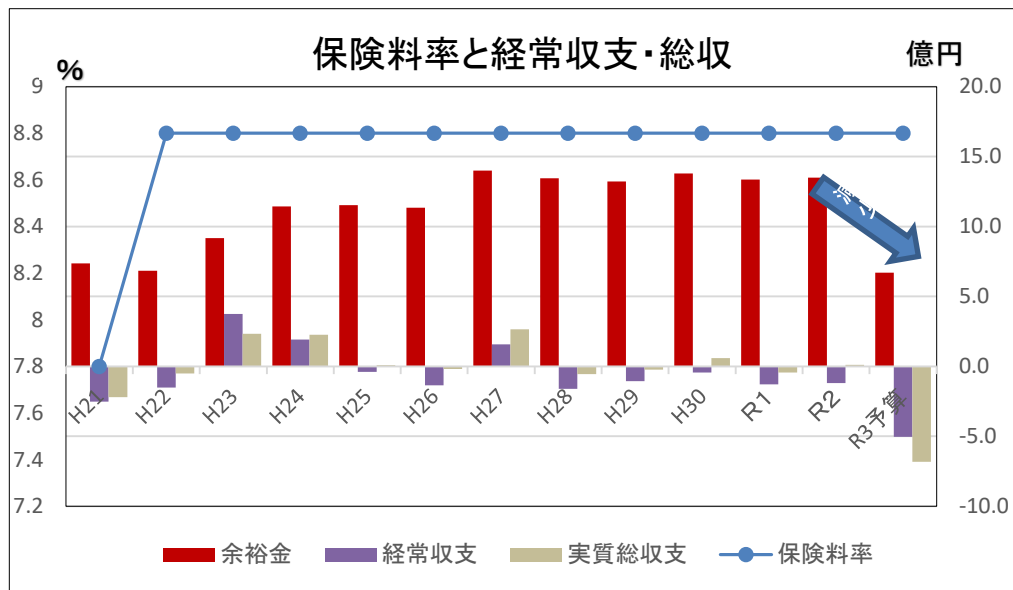
【概要】

白河工場設立時に福利厚生のために1975年土地建物を購入したが、利用客減少により、1999年に閉鎖。
その後2011年東日本大震災により建物損傷により取り壊した。
再建計画のない中、令和3年にはいり売却先が見つかり、売却契約に至った。

報告事項： 2. 当健保の課題

【課題】

- ・2016年以来、経常収支で赤字が5年続いている。経常収支の黒字化が急務である。
- ・給付金(医療費)の上昇レベルが続くと、3年後の令和5年決算では余裕金(積立金+繰入金)がゼロレベルになることも予想される。
- ・当健保が保険料率を長らく据置けたのは先を見越した料率設定によるもの。



(単位:億円)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3予算
保険料率 %	7.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8
余裕金	7.4	6.8	9.2	11.4	11.5	11.3	14.0	13.4	13.2	13.8	13.4	13.5	6.7
経常収支	△2.5	△1.5	+3.7	+1.9	△0.4	△1.3	+1.6	△1.6	△1.1	△0.4	△1.3	△1.2	△5.0
実質総収支	▲2.2	▲0.5	2.3	2.3	0.1	▲0.2	2.7	▲0.6	▲0.2	0.6	▲0.4	0.1	▲6.8

◇財政健全化のための取り組むべき課題(経常黒字化に向けて)

⇒R2年度も国及び健保連からの補助金により0.12億円の実質黒字。経常収支では前年より多少改善したが**1.2億円の赤字**。

◇具体的方策

・保険料の料率アップ

H22年(10年)以来、12年間料率8.8%で据え置いてきたが、経常収支**赤字が継続**しており最終的に**9.8%**を目標にR4年4月から**段階的**に引き上げを実施したい。

⇒**本年4－8月の実績を考慮してアップ率を決定したい。**(R3年予算はコロナ禍の状況を見通せない状況で立案され、現在検証中)

案)R4に0.5%アップし、その後は各年度の実績を照らし合わせ決定したい。

0.5%アップで年間約2.3億円の保険料の増収。1人当たり約1,200円/月負担増

⇒**9月中に決定し、SRI NO1予算へ反映**